




# 保育ゾーン「わんぱく工房」を利用した4歳児の活動事例《試す・工夫する・イメージを広げる》

学校法人北邦学園 札幌自由の森幼稚園（北海道）

## ○活動の進んでいる様子(かなづち編) 7月中旬

子どもの姿	教師の援助・配慮	子どもの姿からの考察
<p>*まずはかなづちの打ち方を知っていけるような活動から入る。</p>  <p><b>気付く</b></p> <p>「細い枝は打てるけど、折れやすいなあ」「コレは折れないけど、なかなか入っていかない…」など、友達と自分の感じたことを伝え合い試す姿が見られた。</p> <p>*次に実際に釘を用いて、再びいろいろなものを打ってみる。かなづちの扱いにも慣れてきた子どもたちは、枝より幾分も小さい釘を器用に打っていく。</p> <p>「土はやわらかくてうちやすい」「黒い土はすごくやわらかい！」</p> <p><b>感じる</b></p> <p>「この木は硬いよ！」 「え？どれどれ…あ、ホントだ！」など、さらに自分達で気付きいろいろ試してみる姿が見られた。</p> <p>かなづち打ちの感触や楽しさを十分感じた。</p>	<p>・戸外でいろいろなものを打ってその感触や太さ細さによる違いなどを子どもたちが実体験を通じて知っていけるよう配慮する。</p> <p>・いろいろな感触に気付いていけるよう子どもの意見を聞きながら、様々な場所に移動しみんなで試し打っていけるよう援助する。</p> <p>・子ども達が白い土と黒い土の感触の違いに気付いた時に、教師が「黒い土は湿っていてやわらかいだね」との言葉を投げかけ、その意味に気付けるよう配慮した。</p> <p>*さらに木による感触の違いにも気付けるよう、いろいろな木を打ってみる。</p> <p><b>「土と違う！木を打つのおもしろいなあ！」</b>など、十分に感触を味わっていた。</p> <p><b>気付き、試す</b></p> <p>・いろいろな木があることに気付けるよう配慮する</p>  	<p>・子ども自身が普段手にしたり遊びに用いている自然物を実際に打ってみることがまず興味をひき、楽しみながらカナヅチの打ち方を知っていくことができた。子ども達の普段の遊びを活かした活動にしていけることが関心を持って取り組む糸口にはいいのではないかと。</p> <p>・自分で自由にやわらかい場所、打ちにくい場所などを発見し、その感触を味わっていくことができると、次々にいろいろな場所・物を試してみようという意欲につながることができるかと考える。</p> <p>・子どもの気付きを大切にその意味を伝えていくことで、不思議が発見につながったり、新たな気付きにつながっていくのではないかと。</p> <p>・木でも種類によって硬さが違い、そのために打ちやすさも違うことに気付き、不思議や発見を喜ぶ姿が見られた。子どもが興味を持っていることにさらに気付けるような配慮や環境構成をすることで、子どもの興味関心はさらに広がり、主体的に活動していく姿につながると感じる。</p>

## ○08月下旬

ねらい 一人ひとりがイメージを持ち、友達と一緒に遊んだり自然物を活かした自分なりの表現を楽しんだりしていく

内容 遊園地という子どもにとって身近な題材をテーマに、自然物を用いてイメージを膨らませながら製作をする





### 環境構成・事前準備


- ・大小様々な形の木（輪切り、斜め輪切り、小枝、イタドリ）
- ・自然物（どんぐり、まつぼっくりなど）

「遊園地」という敷地をイメージできるように色を塗った大きな土台を用意し、できた作品を自由に置いていけるようにした。



## ○活動の進んでいる様子(遊園地製作編)

子どもの姿	教師の援助・配慮	子どもの姿からの考察
<p>*自分のイメージするものを、様々な形の自然物でボンド付けする</p> <p><b>考え、工夫する</b></p> <p>「ななめにつけるのは難しいなあ」「これとこれをくっつけたらテーブルができるかなあ」</p> <p>材料コーナーにイメージするものをさがしにくる。その場で新たに作りたいものをイメージする子や、すでにこんな形がほしいと思いが明確になっていたり様々。</p>  <p><b>考え、試す</b></p> <p>「これは使えるかも！」「耳になるものはないかなあ」</p> <p>*くぎとカナヅチも用いてさらにイメージを膨らませ製作に取り組んでいく。</p> <p><b>気付き、試す</b></p>	<p>「遊園地」というクラス全体で共通のテーマを持って活動を進めていくことで、イメージを持って取り組めるよう配慮する。</p> <p>・様々な形の素材を用意し、子ども達のイメージするものを作りやすい環境構成にする</p> <p>・子どもが作りたかったものを実現していけるよう必要に応じて援助していく</p> <p>・子どもなりに考えたり工夫してみようとする気持ちを大切にしていける</p> <p>・子ども達が作った作品を紹介する場を持ち互いの作品に興味を持ったり、刺激となるよう配慮する。</p> <p><b>「前回よりさらに材料を増やし、子どもイメージに対応していけるよう配慮する。」</b></p>  	<p>・子どもにとって身近なテーマは取り掛かりやすく、興味を持って取り組むことができるのではないかと。また共通するイメージがあると友達と共感し合い刺激となり、より創造性が発揮されていくのではないかと。</p> <p>・自分なりのイメージを持ち、工夫したり試行錯誤を繰り返す中から様々な素材の活かし方に気付いていくことにつながるのではないかと。</p> <p>・存分に素材に触れ、いろいろ試しながら作ることでさらにイメージが膨らんでいくのではないかと。</p> <p><b>試す・工夫する</b></p> 

<p>かなづちの使い方もなれたもので、イメージがどんどんふくらみ製作に夢中の子どもたち</p>  <p style="text-align: center;"><b>イメージをふくらませ</b></p> <p>「動かないようにしっかり・・・」</p>	<p>・友達に作品に目を向け、同じ素材を使った自分とは違う表現方法に気付いていくよう援助する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしたものがうまく再現していけるよう様子を見ながら援助していく</li> <li>・友達や教師の作品からヒントを得たり、イメージを広げていけるよう配慮する</li> </ul>	<p>・子ども達のアイデアをひとつひとつ丁寧に受け答え、認めていくことで次々に自分の思いを伝え製作に意欲を高める様子が見られた。子どもの意欲を引き出し伸ばしていく言葉がけの大切さが改めてわかった。</p>
<p>教師の作っていた線路に興味を示した子ども達が、新たに自分達の発想で作り始めた。子ども自身からの発想も多く、木の輪切りを少しずつずらして階段にしたり、半輪切りの木と枝できのこにしたり・・・、と多くのアイデアが見られた。</p>	<p>・実際に教師の作った線路に、興味を持った子どもたちが、どんどん加わっていき、そこから子どもの発想を引き出していき、「新幹線」「ジェットコースター」を作ったり、線路脇には「駅」「改札」などができていった。</p> <p>・子ども達の作品をみんなで見合う場を設け、互いの作品を認め合ったり、アイデアのおもしろさを共感しあえるよう配慮する</p>	<p>・身近な題材を共通のテーマにおいたことで、飽きることなく意欲的に活動に取り組むことができていた。また、イメージを実現しにくいことも、きっかけとなる言葉掛けを丁寧にしたり、十分ほめて認めていくことで、自身をもって生き生きと取り組めるのではないかと。</p>

## 【反省・評価】

### 1). 活動のねらいに照らし合わせて

- ・遊園地というテーマは友達とイメージを共有しやすく、また自分が感じたドキドキ感やワクワク感、こんなアトラクションがあったらいいのにと夢を膨らませていくのには良い題材だった。
- ・また、友達とイメージを共有することで作品について言葉を交わしたり、友達のアイデアを自分の作品のヒントにするなど子ども同士の関わりが多く見られ、クラスの色々な友達と関わり、友達関係を広げていく良いきっかけとなった。
- ・自然物を使った製作をしていく中で試行錯誤を繰り返しながら自分なりのイメージを表現すること、手を加えることで様々な形になっていくことに楽しさや驚きを感じており、一人ひとりが考えること工夫することを通して想像する力、作り出す力を発揮していたので良かった。

### 2). 具体的にねらっていた事柄に対して

#### ①環境構成、事前準備について

- ・事前に木の枝、釘、かなづちを用いた活動を行い、土や丸太に打ち込む感触やかなづちの使い方親しむと同時に、扱いやすい廃品で遊園地を作る経験をしてきたため、当日自然物を使ってイメージしたものや思いついたものを表現していくのに戸惑う姿は無く、どの子も意欲的に活動に取り組んでいた。
- ・わんぱく工房ならではの雰囲気子ども達の活動への意欲をかきたて、落ち着いてじっくりと製作に取り組む姿につながり感じられる。
- ・どんぐりや木の枝、実などの製作に使えるような自然物を子どもと集めることで、「これも何かに使えそう」「～になりそう」等とただ観賞するだけでなく、遊びに取り入れていくものとして自然物に触れていく姿が見られ、自然物に対する意識が「見る」「触れる」「(遊びに)取り入れる」「手を加えていく」と広がっていった。

#### ②子どもから出ていた『感じる・気付く』といった面について

- ・木の枝を土に打つ活動を何度かする中で、土の色(乾いてる、湿ってる)や枝の太さや長さによって打つときの感触(力加減)が違うことを感じていた。
- ・また、白樺の丸太に釘を打つ活動では土との違いを何度も試したり、生木との違いを試す姿が見られた。
- ・自然物を使った活動をしていく中で、木の実や葉を遊びに取り入れていく楽しさを感じていた。
- ・友達に作品に目を向けることで自分とは違うアイデアに気が付き取り入れていた。

#### ③教師の援助によって子どもが『感じたり気付いた』ことについて

- ・自然物を活動に取り入れられたり、葉や木に実が付くなどの生長している様子を伝えることで、子ども達も自ら自然物に目を向け、変化に気付き驚いたり発見する楽しさを感じていた。
- ・子どもが活動している姿を見ながら具体的に褒めたり認めたりしたところ、気付かずにいた自分のアイデアや工夫に気付き、自分なりの表現を楽しんでいた。

## みどころ

かなづちの経験を通して技術が身につく過程から、好奇心を持って繰り返し取り組むことは、技術の取得につながる分かります。かなづちを使って4歳児らしく様々な探索をすることで、かなづちの扱いだけでなく、いろいろな木や土といった対象の硬さなどの特性や扱い方にも気付いて遊ぶ幼児の様子をとらえて、保育者は「イメージを膨らませて表現を楽しむ」という次の意図を持って環境の構成を行いました。扱うものの特性を知って自然物とかかわっている中で、イメージを膨らませて工夫して製作活動を楽しむというねらいに沿った取り組みが展開されました。大小様々な形の木(輪切り、斜め輪切り、小枝、イタドリ、どんぐり、まつぼっくりなど、目の前の素材から様々なイメージを膨らませたりイメージに合う素材を選んだりする中で、考える・気付く・試すという活動が活発に展開されています。また、共通のイメージを持ちやすいように、遊園地をイメージできる環境を作ったことで、4歳児なりにアイデアや面白さを認め合ったり共感したりすることも期待できる場になったと思われれます。